

No.

1

英文をSVと表記する理由

英文は、5つの型に分ければ理解できる

世の中に不思議なことは数々ありますが、このことはその何番目かにランクされてもよいでしょう。5つよりも細かく分ける方法も昔からあり、それぞれよい点もあるのですが、やはり「5文型」をおびやかすほどにはならないようです。

本書でも5つに分けて考えていきます。その最大の理由は

分類が複雑になることをできるだけ避ける

ということです。その5つは次のようになります。

第1文型 SV

第2文型 SVC

第3文型 SVO

第4文型 SVOO

第5文型 SVOC

(S=主語 V=動詞 O=目的語 C=補語)

上の表を縦に眺めてください。すべてに共通している要素がありますね。S(=主語)とV(=動詞)です。

- ① すべての英文を5つの文型に分けて説明する。
- ② そのすべてに共通する要素はSとVである。

①と②から、「英文」をSVと表記することにします。

No.

2

「~のみ」という考え方の大切さ

英文法を学ぶ目的は、細かい例外的なことを分析することではなく、

読む・聞く・書く・話すという行為を
スムーズにするための道具を作る

ことです。言葉の世界の現象はさまざまで、何らかの理論を立てても、その理論に対する例外的なケースが出てくることは避けられません。

その場合、例外規則が多すぎるとは、役に立つ道具にはなりません。例外は切り捨て、できるだけ一般性のある理論、より一般的なことをまず押さえるという姿勢が大切なのです。

また、英文法の理論は、これが唯一正しいというものがあるのではなく、その理論の優劣を競い合うものでもありません。英文法学習の目的を明確にしておかないと、例外が多すぎる理論や、分類のための分類となり、その理論を理解することが目的となってしまうといったことになりかねません。英文法学習の目的が見えなくなってしまう高校生が多いのです。

早速、具体的なアプローチ法を言えば、「~のみ」という言い方をもっと見直すべきでしょう。本書でも、たとえば「使役動詞は(3+1の)4つのみ」という言い方をしていきます(No.106)。

まずは、「のみ」という考え方で品詞の問題に取り組んでみましょう。

- Q 1. 一般に、SVOOは第○文型、SVOCは第○文型と呼ばれる。
2. 英文で主語(S)がないのはStand up.「立て」のような○○文のみ。